

海の博物館の取り組みを紹介します

市立海の博物館では、海女をはじめとする漁村の文化や歴史を紹介しているほか、市民のみなさんが海に関するさまざまな体験を通してこの地域で海と関わってきた人々の営みについて深く知る機会を提供しています。今後も地域の学びの場づくりに努めるとともに、観光客にも鳥羽の魅力を発信していきます。

市立海の博物館 ☎(32)6006

平成30年度のふりかえり

●特別展などを開催

鳥羽の海に生きるプランクトンの世界やタコをめぐる人々の信仰に関する企画展を催しました。12月から開催した神島展では、古文書や昔の写真などを活用して島の暮らしを紹介したところ、神島出身のかたからも大きな反響がありました。

また、ギャラリーでの阪本博文氏の写真展を通じ、石鏡の海藻採集・加工風景など、漁村で生き生きと働く人々の日常を伝えました。



神島展を見学する神島小学校の児童

●鳥羽の魅力を伝える施設として

多くの修学旅行生や観光客に来館していただき、海と人間の暮らしのつながりや、海辺のまち鳥羽の魅力を伝えています。

●児童などの学習の場として

市内全ての小学校の5年生が海の博物館を訪れ、アマモ場での生きもの観察や展示の見学、海藻おしばり作りなど、海をより身近に感じる体験をしました。

また、大学生の学芸員実習を受け入れ、資料の記録や展示などの指導のほか、現役の海女から話を聞くなど、実務に触れる機会を提供しています。



弘道小学校児童による磯観察



鏡浦小学校児童による昔の道具使用体験

●関係機関と連携して

博物館内に三重大学の海女研究センターが設置されたことから、センターと連携して博物館に収蔵されている漁村の暮らしを伝える資料のデータベース化を進めています。

また、関係団体と連携して、流氷に触れる体験や竹あかりが灯る幻想的な夜の「うみはく」を楽しむ機会づくりにも取り組みました。

平成31年度春から初夏の企画

●建築家 内藤廣 講演会

海の博物館は伊勢志摩地方の漁村集落をイメージして設計されており、建築も大きな魅力の1つです。

重要文化財収蔵庫竣工30周年を記念して、海の博物館で平成5年の日本建築学会賞をはじめ、吉田五十八賞や全国公共建築100選など数々の賞を受賞した、東京大学名誉教授 内藤廣氏の講演会を開催します。

とき 4月20日(土) 午後1時～2時30分

ところ 市立海の博物館映像ホール

定員 80人(事前申し込み必要) **参加費** 入館料(大人800円)のみ



内藤 廣 氏

●企画展「漁村コレクション ギョコレ!～海辺のおしゃれ～」

「ドンザ」や「ワタイレ」、海女装束など漁業者の暮らしを「衣装」という切り口から紹介します。日常着から祭礼の衣装まで幅広く展示します。

とき 4月19日(金)～7月7日(日)



漁師の防寒着「ドンザ」

●ギャラリー企画展「第五福竜丸」

昭和29年にビキニ環礁で、アメリカ軍の水素爆弾実験により被ばくした遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」のパネルや放射線測定器を関係機関の協力により展示します。

とき 4月12日(金)～6月25日(火)

●各種体験メニュー

・「お絵かき水族館」の延長

ご自身で描いた絵がスクリーンに映し出され、泳ぎ出すデジタルアートイベント(鳥羽市観光協会主催)が延長になります。

とき 4月7日(日)まで

参加費 600円(入館料別) ※事前申し込みは不要です。

・ワカメとヒジキを刈り取ってみよう!

地元漁協の協力により、ワカメ・ヒジキの刈り取りを行います。刈り取ったワカメは茹でてたてを味わうほか、ヒジキは加工し、後日郵送します。

とき 4月21日(日) 午前11時～午後2時

定員 小学生以上20人(事前申し込み必要)

参加費 1,200円(入館料込み)



ヒジキ刈り

・世界一小さいイカをつかまえよう! ～アマモ場の生きもの観察会～

とき 5月5日(日・祝) 午前11時～午後2時

定員 小学生以上20人(事前申し込み必要)

参加費 1,200円(入館料込み)



生きもの観察の様子

・各種クラフト体験

週末やゴールデンウィーク中は海の素材を使った「ジェルキャンドル」や「海藻ストラップ」の制作体験(有料)を実施します。